阿蘇のカルデラ内を中心に見られる現象。太陽が昇り谷の気温が上昇すると消えてしまう。外輪山からだけでなく高岳や根子岳からの眺めも美しい。

太陽だけが白い魔法を解ける

八月のある朝、白い魔法が谷を包み込む――。

風の弱い晴れた日、地面の放射冷却によって水蒸気が凝結し、谷は層雲に覆われる。これを雲海と呼ぶ。外輪山から見る雲海の眺めは、飛行機で雲の上を飛ぶ時に見るあの光景と同じだ。雲は上空の暖かい空気に押さえ付けられ、太陽が魔法を解くまで動けない。

地上から高さ五百～八百メートルにかけて発生する雲の厚さは二百～三百メートル。春、夏、秋、冬。通年にわたり見られるが、特に八月が多い。

真っ白い雲の海。そんな美しい光景も、谷から見上げるとただの霧にしか見えない。雲海の朝は、暑い夏の日の始まりがいつもより少し涼しい。

雲海が発生しやすい条件がある。前日が雨で、翌朝高気圧に覆われた日。地面に染み込んだ雨を空気が吸い上げ、雲が生まれる。雨が降らなくても水田や池の水が蒸発して発生することもある。夜十時ぐらいからなんとなく霧が出てくることがある。そんな日の翌朝が白い魔法の〝決行日〟だ。

「雲に梯（かけはし）」という言葉がある。到底かなわない望みのことをこういう。

いったい雲の上には何があるのか。北外輪山が掛けてくれた雲への梯（はしご）子。かなわないはずの望みがかなって、昇りつめた先には、青白い雲を枕に仏様がシンと横たわっておられた。

そして、太陽が雲海を照らし出す瞬間。光の粒子が降り注ぎ、薄いオレンジ色の光が雲を染める。東の方から少しずつ少しずつ…。太陽が地上に出てしまうと、オレンジは姿を消し、再び白一色の世界に戻る。やがて太陽が白の魔法を解く呪文を唱えると、雲はパッと退散し、後には何もなかったように緑の山肌だけが残る。